

るさつ 探訪

月 曆

七草・七輪・七並べ



早いもの、一年の後半がスタートする文月・ふみづき・七月の十七日は「海の日」、二十三日は「ふみの日」である。

七草……「せり・なすな・こぎょう・はこへら（はこへ）・ほとけのざ・すずな（かぶ）・すずしろ（大根）これぞ七種」は正月七日に食べる「七草粥」に入れる若菜

であるという。

全国に普及している七草粥も、地方によっては雑炊であり、雑炊であるが、食辞林（日本の食べ物・語源考「興津要著・双葉社」）によると、七種の菜を調理するさいには、六日の夜か七日の早朝に野草をマナ板の上におき、そのそばに薪・包丁・火ばし・すりこ木・しやくし・菜箸などの七具を添えて野草を叩き刻んで粥に入れて食べたとある。

また、古くから日本の秋を代表するとされる七種類の草花といえは、「はぎ・すすき・あさがお・なでしこ・おみなえし・くす・ふじばかま秋の七草」であり、そのまた代表的な女郎花（黄花）の姿に似た男郎花（白花）もあるが、いずれにしても、本州の各県から集団移住した東川では、それぞれの伝統の味や風習が受け継がれている家庭が少なくなつたようである。

七輪……全国方言辞典では、かんでき（銅鍋、しちりん、こんろ）とあり、辞書では「七厘（価格が七厘ほどの炭で煮炊きができるという意）という土製で、炭・練炭・炭団用の移動式こんろ」とある。

焔炉といえは、木炭用こんろのほかは電気・ガス・石油などと現在では便利・調法な発熱器具が勢揃いするが、元来は「かまど」に對する小型の炉をいっただけという。そういえば、酒一升を持参して二升もがぶ呑みした挙げ句の果てに、教授の奥様が七輪であたためていた焔酒の湯鍋によろけてひっくりかえし、右足に大火傷をした学生時代の苦い体験には、こんろと酒がちらつくのである。一九五二年（昭和二七）の、忘れもしないクリスマス・イブ。激痛を感じて目覚めた場所は学生寮の一室であつたが、その後が大変……。火傷の水ぶくれを針で破る荒療治をして、橋で四条駅まで運んでもらって、電車で東川駅まで歯を食い縛って、馬橋に乗って帰家して、小さくなつて……。

ケロイド（火傷による癩痕）もほんのちよっぴりとなつた右足の小指を見たり、こんろを使つたり

すると、「走馬灯のようになつての「若気の至り」の失敗を思い出すのである。

七並べ……数人で競うトランプゲームの一種で、七の数を中心に同じ印の札で数を順々に並べ、早く手札がなくなつたら勝ちとなる。ジョーカー札の使い方やパスの取り方など、その時のルールで札並べをするが、けっころ「頭を使うゲーム」で、手札の数字や枚数そしてタイミングも加味されて、室内ゲームでもよく行われていた。かつては……。

今やカードもいろいろ、しかもテレビゲーム全盛時代なので、トランプの七並べなどは「どこ吹く風」といったところだが、目と手の共応にもスピードが要求される昨今にあつては、特にトランプはマジック用だけといつても過言ではないだろう。

人生は七転び八起きとか。目まぐるしく変化するこのころこそ、「無くて七癖」に注意して暑くなる七月を過ぎなくちゃ……。

（元）郷土史編集専門員
尾池隆男

人口 / 7,712人（前月比15人） 男 / 3,688人（前月比8人） 女 / 4,024人（前月比7人）
世帯数 / 3,063戸（前月比14戸） 出生 / 4人、死亡 / 4人、転入 / 29人、転出 / 14人 【5月31日現在】
住民登録の手続き上、人口増減と出生・死亡・転入・転出の増減は一致しないことがあります。



本誌の印刷には、大豆インクを使用しています。
また用紙には再生紙(100%)を使用しています。